



国際ローラシャッハ及び投映法学会よりお知らせ

ISRは2020サマーセミナーをヴァーチャルで行うことを決定しました！

テーマは、投映法における抑うつ表現と複雑性です。ふるってご参加ください。

私たちは世界的な感染拡大による苦難、そして近いうちに予定されていた学術的な活動は全て中止という事態に直面しているところですが、ISRは、世界中の仲間とのヴァーチャルミーティングを開催することをお知らせします。

講師

Marek Macak

Cecilia Kallenberg, Psy.D

Malin Holm, Psy.D

Odile Husain, Ph.D

指定討論者

James Kleiger, Psy.D

日時：2020年9月10日木曜日および同月17日、24日

世界各地域からの参加者が同時に参加できます。

午前7時から午後1時（アメリカ太平洋岸）、午前10時から午後2時（アメリカ東部）、午前11時から午後3時（南アメリカ）、午後4時から午後8時（ヨーロッパ）、午後11時から午前3時（日本）

参加できなかった方は、後日、有料で録画を視聴できます。

期間：3回のミーティングはサマーセミナーに準じてそれぞれ4時間で終了します。ただし、その後3週間

は公開いたします。

一日のスケジュール [アメリカ東部標準時]

午前10時00分～午前11時15分 (日本時間：午後11時～午前0時15分)：発表 [パワーポイント] と事例紹介。Zoomのシェアスクリーン機能使用。

午前11時15分～正午 (日本時間：午前0時15分～午前1時)：全体討議と指定討論者からのコメント

正午～15分間 (日本時間：午前1時から15分間)：休憩

午後12時15分～午後1時15分 (日本時間：午前1時15分～午前2時15分)：小グループに分かれて討議。Zoomのブレイクアウトルーム機能使用。

午後1時15分～午後2時 (日本時間：午前2時15分～午前3時)：事例についての全体討議と指定討論者の講評

参加費

7月25日以前からISR会員：240スイスフラン (日本円で約2万7000円/2020年6月10日現在)

7月25日以降にISR会員となった方：265スイスフラン (日本円で約3万円/同上)

7月25日以前にISR会員でなかった方：270スイスフラン (日本円で約3万500円/同上)

7月25日以降もISF会員でない方：295スイスフラン (日本円で約3万3400円)

定員 20名

5人の教授陣は3日間全てに参加します。25人定員のZoomミーティングを用いて行う予定ですので、

20人の参加者の登録を承ります。

講師紹介

Jim Kleiger, Psy.D, Bethesda, MD, USA 指定討論者

生物精神医学及び認知神経学の進歩は、抑うつの見え方を良くも悪くも変化させてきました。ロス（喪失）の症状や発育能に兆候があるか、または、自我防衛や抑圧された攻撃性の副産物が見受けられる場合、狭義の抑うつ症状、単にうつ病、あるいは、気分障害の連続体（範囲）と診断されて終わりになりがちです。投映法は、そうした診断を超えて、抑うつを持つ無数の意味、抑うつの根本にあるものや現象として現れているもの、治療的意味を理解する手立てを与えてくれます。我々は様々な文脈や治療過程の中で、抑うつの複雑性を照らし出す投映法の役割をお示しします。

Marek Macak, Prague, Czech Republic

ロールシャッハにおける抑うつの歴史

我々のフィールドの歴史を見渡すと、様々な研究者が、患者の反応の相矛盾する面を強調したり、抑うつの体的な体験の理解を踏まえつつ、ロールシャッハテストで抑うつを捉える方法を提示してきました。これらのアイデアの集積は我々の理論や臨床を豊かに、また、文脈の中で抑うつを解釈することを可能にしてくれました。今回は、アセスメントに関わる解釈過程の構造に影響を与えた各理論の枠組みを超え、歴史的な視点から発表します。

Cecilia Kallenborg, Psy.D and Malin Holm, Psy.D, Stockholm, Sweden

生を実感する必要性-若年犯罪者に見られる多様な抑うつについて

若年犯罪者に共通して見られる抑うつの言は、暴力的かつ反社会的行動に駆り立てる可能性があることを認識することが重要です。彼らの抑うつ感情は、しばしば偽装され、否認されるため、行動観察だけでは分かりにくい。我々は、抑うつと暴力をめぐる概念を発展させ、かつ、いわゆる「有害な男らしさ」の心理についても触れたいと思います。我々は、マルチメソッドアセスメントに拠っているため、今回の事例で

は、他のテストデータと照合する前に、ワルテックのブラインド解釈を行うといった特別な方式により解釈を進めます。

Odile Husain, Ph.D, Montreal, Canada

抑うつへの反動：躁的な抑うつ傾向が表れている事例検討

我々は、公的、私的を問わず臨床現場では、何年もぶり返す抑うつと戦っている患者、または、治療に不満を言い続ける不機嫌な患者とよく出会います。我々は、こうした患者さんたちから躁的な抑うつスペクトラムの存在を仮定し、ロールシャッハテストと TAT の方法と形式に基づきつつ、その結果に特別な分析を施しました。ご参加の皆さんには、これらのテストで見られる躁的な抑うつ傾向の特徴を紹介します。こうした特徴を参照することにより、抑うつへの事例をよりよく理解できるようになるはずです。